



平成27年 6月24日 NO・40

〒311-1114 水戸市塩崎町1016
 TEL029-269-2116 FAX029-269-3160
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp
【ホームページで、カラー版が見られます】

本当に立派な人は失敗を次に活かす (事故ゼロが願い)

2学年主任 大内 美保子

わたしが中学校の教員になって、2年目のことである。朝、職員室に連絡が入った。「中学2年生が、自転車事故を起こし救急車で運ばれた」と……。わたしのクラスの野球部で活躍する男子生徒だった。

急いで病院に駆けつけると、彼はベットに横たわり、首を器械でけん引(引っ張られて)されていた。強い衝撃が首にかかったことが見て取れた。命に別条はないが、安静が必要ということだったので、ほとんど話もせずに部屋を出た。担当の医師に説明を聴こうと診察室に入ったわたしの目に飛び込んできたのは、パカッと真っ二つに割れたヘルメットだった。白く硬い表面の大きく割れたところから、内側のクッション部分が黒く見えていた。

医師はそのヘルメットをわたしに見せながら、「かなりの衝撃をこのヘルメットが吸収してくれたから、あの程度のケガで済んだのです。ヘルメットがなければ、頭がこのヘルメットのように割れていましたよ。」と言った。

『彼はヘルメットをしっかりとしていた。だから助かったんだ。』わたしは、その時初めてヘルメットの効果を実感した気がした。実は、数日前にヘルメットのあご紐をゆるゆるにして頭に乘せているだけの彼を見かけ、注意したばかりだった。『よかった。』心からそう思った。

事故の経緯はこうである。……。ゆるい下り坂の左カーブをスピードを出して走っていると、トラックが止まっ

ているのが見えた。急ブレーキをかけトラックをよけようとハンドルを切ったその時、アスファルトの路面に広がっていた砂の上で横滑りし横転した。はずみで近くのコンクリートの塀こ思い切り頭を打ちつけてしまった。……。という。運動能力に優れた彼は、「まさか自分がこのような自転車事故を起こすとは思わなかった。……。」と。

自分の身は自分で守る。それも中学生としての責任だ。予期せぬ時に事故は起きる。きっと大丈夫という根拠のない決めつけで、学校生活ではさまざまな事故が起きている。「万が一……」ときどき考えてみてもいいのではないだろうか。

ルールにはそれなりの理由がある。どうしてなのか、自分の頭で考えてみてほしい。



本日と明日の二日間です。期末テストが実施されている。第一日目の一校時目は、音楽と技術・家庭のテストが実施された。どのクラスも整然として整い静かな集中でできる環境の中でテストが実施された。とりわけ、机上の整頓が整っていることが常中らしいと感じた。



定されている。

期末テストはじまる

常中の教師は、学習中座らないテストの時でもこの原則は守る。稲田先生の立ち姿がまぶしい！